

中区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称				実施主体			
中区青色防犯パトロール活動支援事業				中区役所企画総務課、中区役所自治推進課			
事業目的		事業内容		活動指標		R5	
青色防犯パトロール活動において、安全の確保と不測の事態への対処のため、複数名が乗車することを警察から推奨されているが、活動団体によっては乗車人数が複数名準備できない場合、防犯パトロール活動の実施を見送っている現状がある。 このような現状を解決し、体感治安向上のため青色防犯パトロール活動の支援を行う。		青色防犯パトロール団体の隊員が運転する青色防犯パトロール車に大阪公立大学ボランティア・市民活動センターから紹介された大学生が同乗し、地域の防犯パトロール及び防犯活動（不審者発見時の警察への通報等）を実施する。		青色防犯パトロール実施回数		7回	
①妥当性		②協働の視点		③インパクト		④効率性	
◎	乗車人数が不足する青色防犯パトロール団体に学生ボランティアを紹介することで、青色防犯パトロール実施回数の増加が見込まれる。それにより地域の体感治安の向上につながるため、区が事業を実施する妥当性が高い。	○	大阪公立大学ボランティア・市民活動センターにて学生ボランティアの募集を行い、活動支援を行ったため、協働事業と言える。	○	中区にある大阪公立大学と連携した取組であるため、区域の特色を活かした事業である。	○	参加者は大阪公立大学ボランティア・市民活動センターでボランティア募集をしており、事業費用はボランティア保険料及び大学と活動場所間の交通費のみであるため、費用対効果の高い事業と言える。
⑤自立発展性		総合評価					
△	青色防犯パトロール団体が自ら大阪公立大学ボランティア・市民活動センターと連携して、学生ボランティアの募集を行うことも可能ではあるが、乗り手不足の解消という課題がある事業であり、現時点では自立発展性は低い。	○	学生ボランティア募集に4人の応募があり、本事業のボランティア活動に対する関心を感じられた。 学生が青色防犯パトロール車に同乗した回数は合計で7回であり、本来活動できなかった日にもパトロールしたことで、体感治安の向上につながったことから、事業効果が高いと言える。				
今後の方向性（課題、改善提案等）							
拡充 継続 見直し 廃止	今年度、参加学生4人のうち、継続的に参加した学生は1人だけであったことから、青色防犯パトロール団体と学生とのスケジュール調整の難しさが明らかになった。また、同乗するだけでは参加学生のモチベーションの維持が難しく、参加学生からも青色防犯パトロール団体だけでなく、学校とも連携し啓発することについての提案があった。 来年度は、これらの課題について、青色防犯パトロール団体・学生とともに検討しながら事業実施していく。						